

《アクションプラン項目》

(テーマ)

動物福祉

[動物福祉]

No.2、3、62、63、64

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
2	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

野生本来の動物の行動を魅力的に見せる展示を行います

■達成目標

本来の生息環境を再現したうえで、生息地での行動を引きだす

■アクションプラン評価指標

環境エンリッチメントの全園的な実施の進捗

■評価理由

飼育各班全てにおいて環境エンリッチメントの実践が進んでいる。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・環境エンリッチメントは、動物園の限られた飼育環境の中でも動物の生活の質（QOL）を向上させる工夫を行うことであり、給餌方法の工夫、遊具の提供など様々な方法がある。

・一部の飼育員により取り組まれてきたが、動物福祉向上に有効な手段であり、かつ、行動的な動物を来園者に見ていただくこともできることから、全園的な取組みに広がっていくことが重要。

【評価理由の詳細】

・H28年度の段階で積極的に環境エンリッチメントに取り組んだ種はムフロン、クロサイ、ホッキョクグマであったが、R1年度には動物専門員を採用するとともにスタッフ主任を配置して、各班が実施する環境エンリッチメントを指導する体制を構築した。R1年現在エンリッチメントを積極的に実施している種は上記に加えメガネグマ、ツキノワグマ、マレーグマ、フタコブラクダ、ニホンアナグマである。

・エンリッチメントの実施例としては、ウキ玉や編み込んだ消防ホースなどを利用してエサやおやつとの与え方を工夫したものなどがある。

・エンリッチメントの効果判定については今後の課題である。

■今後の取組方針

【総括】

環境エンリッチメントを引き続き全園的に取り組んでいく。一部の種については、エンリッチメントの実施効果を測定も行っていく。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

環境エンリッチメントが可能な動物種を増やすことを検討するとともに、効果測定に係る研究も実施していく。

マレーグマのフィーダー



ムフロンのフィーダー



ハクビシンのフィーダー



ホッキョクグマの遊具



天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
3	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

動物のトレーニング（ハズバンドリートレーニング）を全園的に推進します

■達成目標

各飼育担当班で最低1種は、トレーニングによるコントロールや治療が可能な状態にする

■アクションプラン評価指標

ハズバンドリートレーニングの全園的な実施の進捗

■評価理由

飼育各班1種以上でトレーニングによるコントロールや治療が可能となっている

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・ハズバンドリートレーニングは、動物の飼育管理のために行う動物のトレーニングであり、例えば、大型動物の健康診断を無麻酔で実施できるなどの効果が期待される。特に健康診断を要する高齢個体の健康管理・福祉向上にも有効。
- ・動物園ではこれまではあまり取り組まれてこなかった技術であることから、この技術を学び、ノウハウを蓄積していく必要がある。

【評価理由の詳細】

- ・それまでは一部の飼育員が見よう見まねでやっていたが、トレーニングの理論を本格的に学ぶため、外部講師を呼んで動物行動学講座を開講した。この講座は飼育各班より1名が受講し、受講した飼育員がトレーニングを実践。トレーニングに取り組んだ動物種はクロサイ、マレーグマ、ホッキョクグマ、ピューマ、フタコブラクダなど。（H28～29）
- ・講座で学んだ飼育員から他飼育員にハズバンドリートレーニングの知識を普及させるため、職場内勉強会を実施（H30）
- ・R1には動物専門員を採用するとともにスタッフ主任を配置して、各班が実施するトレーニングを指導する体制を構築。R1年現在トレーニングに積極的に取り組んでいる種はトラ、キリン、エランド、ジャガー、ライオン、カバなどである。
- ・現在、トレーニングにより採血ができるようになった種は8種（クマ3種、サイ、ピューマ、キリン、ラクダ、シカ）
- ・トレーニングの活用例としては、高齢であったピューマに対してトレーニングを施して採血ができるようになったため、負担をかけずに健康状態の確認や、よりQOLの高い健康管理ができた。

■今後の取組方針

【総括】

これまで学んできた技術を組織内で定着させ、実効的なものとしていく。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

全飼育員がトレーニング技術を習得することを目指す。
トレーニング計画を策定し、同計画に応じてトレーニングを活かした飼育管理を行う。

ハズバンダリートレーニングの例

(No.3補足)

高齢ピューマの治療(トレーニングにより採血や点滴なども可能に)



高齢メガネグマの口腔ケア



マレーグマの採血



クロサイの体重測定



天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
62	△	管理担当	○
		飼育担当	○

■計画内容

既存の施設についても、施設の維持管理計画を策定し、適切な飼育環境を確保します

■達成目標

維持管理計画に基づいた更新を実施し、適切な飼育環境を確保する

■アクションプラン評価指標

施設維持管理計画の策定及び実施状況

■評価理由

施設維持管理計画を今年度中に策定予定

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・古い獣舎の多い当園で動物の飼育環境を維持確保していくためには、既設獣舎を適切に修繕・改善していくことが必要。
- ・施設や設備について、更新時期に来ていた設備や緊急に修繕を要する施設については随時対応していたが、動物園全体を見渡した施設や設備の維持管理の計画は策定されておらず、策定を進めてきた。

【評価理由の詳細】

（主な整備実績）

- ・爬虫類生態館や夜行性動物舎等の空調の緊急修繕（多数）
- ・肉食獣舎床暖房緊急修繕（H29年度）
- ・鳥の楽園の大規模改修（29年度、R1年度）
- ・小型ネコ舎改修工事（H30年度）
- ・チンパンジー舎の展示場の丸太改修（R1年度中実施予定）

（施設維持管理計画の策定）

- ・施設維持管理計画については、H31に改訂された「建築物のライフサイクルコスト」（国土交通省監修）を踏まえて計画策定を進めてきた。今年度中に策定予定。

■今後の取組方針

【総括】

早急に、施設維持管理計画を策定する。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
63	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

高齢個体の管理方法を検討し、充実させます

■達成目標

高齢個体の適切な飼育環境を確保する

■アクションプラン評価指標

高齢個体及び高齢個体予備軍に対する飼育管理の取組実績

■評価理由

高齢個体及び高齢個体予備軍に対する給餌の工夫、飼育環境の改善、ハズバンドリートレーニングによるケアの充実等の対策が進展している。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・環境エンリッチメントは、動物園の限られた飼育環境の中でも動物の生活の質（QOL）を向上させる工夫を行うことであり、給餌方法の工夫、遊具の提供など様々な方法がある。
- ・一部の飼育員により取り組まれてきたが、動物福祉向上に有効な手段であり、かつ、行動的な動物を来園者に見ていただくこともできることから、全園的な取組みに広げていくことが重要。

【評価理由の詳細】

- ・多数の高齢個体（またはその予備軍）を飼育しており、ケアを充実させていくことが必要。
- ・高齢個体の飼育管理としては、
 - ・エサの工夫（食べやすいように細かくカット等）
 - ・敷きワラ（従来はチンパンジーにワラを与えていたが、クマ類へも与えるようになった）
 - ・漢方薬
 等の取組をすすめている。
- ・また、高齢個体のQOL向上を意識してハズバンドリートレーニングに取り組んでおり（項目3参照）、例えば高齢のピューマ（R1.12死亡）についてはトレーニングの結果無麻酔での採血が可能となった。
- ・飼育環境改善のための動物舎の改修については、項目6参照。

■今後の取組方針

【総括】

ケアを要する高齢個体及び高齢予備軍に対して、後手に回ることのないよう対策の準備を計画的に行う。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

主な高齢(予備軍)個体について

[No.63補足資料]

No.	動物名	性別	愛称	年齢
1	アムールトラ	♂	センイチ	16.7
2	カバ	♂	テツオ	36.3
3	カリフォルニアアシカ	♂	ミーク	24.4
4	カリフォルニアアシカ	♀	高瀬	22.7
5	キーウイ	♀	プクヌイ	31.3
6	キーウイ	♂	ジュン	37.0
7	チュウゴクオオカミ	♂	チュンサン	17.8
8	チンパンジー	♀	プテリ	37.2
9	チンパンジー	♂	リッキー	37.0
10	チンパンジー	♀	ミナミ	35.5
11	ドリル	♂	ドン	23.8
12	ニホンジカ	♀	ゑつ子	21.5
13	野間馬	♂	福(ふく)	22.0
14	フサオマキザル	♀	ザビエ	24.2
15	フタコブラクダ	♂	ジャック	27.6
16	ブチハイエナ	♀	愛	18.0
17	マレーグマ	♂	マーズ	16.8
18	メガネグマ	♂	ダイスケ	29.2
19	メガネグマ	♀	プッペ	27.1
20	レッサーパンダ	♀	シュウナ	13.6

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
64	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

動物倫理規定を策定します

■達成目標

天王寺動物園動物倫理・福祉規定を策定する

■アクションプラン評価指標

動物倫理・福祉規定の策定実績

■評価理由

当園独自の倫理福祉規定が未策定

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・動物福祉への関心は世界的にも高まっており、世界動物水族館協会（WAZA）では2015年に「世界動物園水族館動物福祉戦略」を策定し、加盟園館や加盟する地域協会における動物福祉の向上を求めている。
- ・このような動きも踏まえ、日本動物園水族館協会ではH29年に倫理福祉規程を改訂した。
- ・当園においても独自の倫理福祉規定の策定について検討を進めてきたところ。

【評価理由の詳細】

- ・当園独自の倫理福祉規定については、案は策定したが成案に至っていない。

■今後の取組方針

【総括】

規定が未策定であり、令和2年度中の策定を目指す。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

令和2年度中に当園としての倫理福祉規定を策定する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

野生生物の保全

[野生生物の保全]

No.42、65、66

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
42	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

野生動物の保護等についてNPO等との連携を進めます

■達成目標

野生動物の保護に取り組むNPOとの連携体制を構築

■アクションプラン評価指標

野生動物保護に関するNPO等との連携実績

■評価理由

関係団体と連携した取り組みが進展

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園の取組として、野生動物の保護を行っているNPOや各種公的機関との連携は有益であるが、以前はあまりそのような活動はできていなかったため、連携相手の開拓を進めてきた。

【評価理由の詳細】

様々な団体との連携の取り組みが拡大した。

- ・国際生物多様性の日にIUCN-JやWWFジャパンなどとともにトークイベントやパネル展を開催（H26～）
- ・大阪府みどり推進室：おおさか生物多様性施設連絡会（H28～）
- ・大阪市環境局：生物多様性保全推進ワークショップ参画（H29～）
- ・環境省近畿地方環境事務所：生物多様性フォーラム参加（H30）
- ・（公社）大阪自然環境保全協会：共催により両生爬虫類保全公開講座を実施（H30）
- ・大阪市環境局：なにわECOスクエア（生物多様性保全ネットワーク会議）参画（R1～）
- ・大阪府生物多様性センター：大阪生物多様性リンク活動宣言（R1）

■今後の取組方針

【総括】

これまで関係を構築した連携については維持しつつ、新たな連携についても模索していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
65	△	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

生息域内保全に対する技術的、人的な支援を進めます

■達成目標

生息域内保全に対する支援の強化

■アクションプラン評価指標

生息域内保全に対する支援活動実績

■評価理由

ナベヅルやコウノトリといった野鳥の生息域内保全に対する支援活動を継続して実施しているが、強化することはできなかった。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園では主に希少種の生息域外（飼育下）繁殖に取り組むことで種の保存に貢献しているが、これと並行して生息域内（野生下）での保全活動が進められており、動物園が生息域内保全にどのように関わっていくかは世界的な課題。

・WAZAの「世界動物園水族館保全戦略」（2015）では飼育下の保全と野生下の保全を統合していく「One Plan Approach」が推奨されている。

【評価理由の詳細】

・野鳥の保全対策事業について、当園獣医がナベヅルやコウノトリの保全に関して、他都市や環境省と連携しているNGOに対して継続的にアドバイスを実施している。

・一方で、このような取り組みを拡大できてはいない。現行体制下で取組実績を増やし続けていくことには限界があり、動物園の中で域内保全を支援できる人材を育成していくこと等が課題。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、継続的に支援活動を実施していくとともに、独法化も視野に入れつつ、どのような活動を行っていくか検討を進める。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

生息域内保全の活動の充実を図る

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
66	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

大阪近隣地域における野生動物生息状況を把握するとともに、収集した情報を教育活動等にフィードバックします

■達成目標

大阪近隣地域における野生動物の生息状況を把握し、教育普及活動等へつなげる

■アクションプラン評価指標

大阪近隣地域の野生動物に関する教育普及活動の実施実績

■評価理由

おおさか生物多様性施設連絡会など他機関との連携が進展した。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・大阪の野生動物に関する取り組みは以前はあまり実施されてこなかったが、関連団体との協力を進め、活動が充実してきた。

【評価理由の詳細】

・H30の実績としては、大阪府が主催するおおさか生物多様性施設連絡会のホスト、なにわECOスクエア会議への参加などを行った。

・当園内で実施した生物多様性をテーマとした企画展では、海外の野生動物に関するだけでなく、大阪府生物多様性センター等の協力を得て大阪近隣地域の野生動物に関する展示を大幅に強化した。

・大阪府生物多様性センター：大阪生物多様性リンク活動宣言（R1）

■今後の取組方針

【総括】

他機関との連携を定着させ、当園での教育普及活動を充実させる。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

研究活動

[研究機関との協力]

No.69、70、71

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
69	△	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

大学等の研究機関による動物園の活用機会の提供に積極的に取り組みます

■達成目標

研究機関との窓口を設け、情報発信を行いつつ動物園の活用を拡大する

■アクションプラン評価指標

大学等研究機関と動物園の連携実績

■評価理由

大学等研究機関との共同研究は一定実施できているが、研究機関との窓口のホームページ等による周知はできていない。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園では多くの動物を飼育しており、様々な研究のフィールドとなりうる場所である。大学等の研究機関との連携による動物園の活用が望まれる。

【評価理由の詳細】

- ・大学等の研究機関からの依頼により、共同研究を数多く実施している。
H28年度以降に新たに開始した共同研究件数：H28年度6件、29年度10件、30年度5件、R1年度（1月現在）7件
- ・研究の具体例としては、
 - ・鳥類の消化管原虫の遺伝的解明（H28年度～）
 - ・大型ネコ科動物のAIM蛋白質の遺伝的形質解明（H28年度～）
 - ・テンジクネズミのストレスホルモン測定（H29年度～）
 - ・現生四肢動物の形態から絶滅四肢動物の生態を解明（H29年度～）
 - ・エンリッチメントアイテムの投入によるホッキョクグマの行動の特徴（H30年度）
 - ・フクロテナガザル、カンムリヅルの行動観察（H30年度）
 - ・性ホルモンの日長応答から調べるメジロの繁殖開始時期の緯度変異（R1年度～）
 - ・データロガーを用いたクロサイの行動計測に関する研究（R1年度～）
- などがある。
- ・研究機関との窓口については、園内部の研究体制が十分に整備できておらず、ホームページ等における周知ができていない。

■今後の取組方針

【総括】

共同研究の取組みについては引き続き積極的に受け入れる。また、今後はホームページ等で連携先を募集することを目指す。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
70	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

機関間の協力協定を締結し、組織的かつ継続的に幅広い分野で調査研究が実施できる体制の確立を目指します

■達成目標

研究機関と協定を締結し、常に共同研究が展開されている状態を創出する

■アクションプラン評価指標

大学等研究機関との協定の締結実績

■評価理由

大学や研究機関との機関間協定を3件締結し、新たな共同研究にも着手している。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・これまでも単発の共同研究は実施してきたが、研究機関との間で組織的、継続的な関係構築も重要であり、その手段として機関間協定は有効。相手先との合意が得られれば積極的に協定を締結していくこととしてきた。

【評価理由の詳細】

・H29年、大阪府立大学と機関間の連携協定を締結し、野生動物や家畜等についての調査研究・教育や専門的人材の育成などにおいて連携を行うこととした。同協定に基づき、H30年から大阪府立大学獣医学部の授業の一部を本園職員が担当している。また、H30年度には、当園からの依頼により心筋マーカーの有用性の解明に関する共同研究を開始した。

・H29年、岡山理科大学との連携協定を締結し、動物についての調査研究・教育、普及啓発等において連携を行うこととした。同協定に基づき、天王寺動物園企画展での岡山理科大所蔵の標本の展示やチュウゴクワニカゲの成長段階に関する共同研究を開始した。

・R1年、大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターとの連携協定を締結し、生物多様性に関する教育普及活動や生物に関する調査研究において連携を行うこととした。同協定に基づき、天王寺動物園での生物多様性啓発イベントを共同実施している。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、研究機関との継続的な関係の構築のため、協力可能な機関があれば機関間協定の締結を検討するとともに、締結した協定に基づく協力活動を充実させる。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
71	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

研究成果は動物園にフィードバックし、可能なものは動物園の改善に活かします

■達成目標

研究実施状況や成果の組織的共有

■アクションプラン評価指標

研究成果に関する情報共有、公表の実施

■評価理由

公表可能な研究成果については、パネル等を用いて園内で紹介している

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・研究者との関係において、以前は研究試料の提供だけの協力に留まり、動物園に研究成果がフィードバックされないことも多かったが、近年は共同研究の成果のうち、可能なものはパネル等について園内での紹介を進めてきた。

【評価理由の詳細】

- ・H28まではフクロテナガザルに関する研究成果パネル2点を設置していた。
- ・H29にはフンボルトペンギンに関する研究成果パネルを追加し、H30にはフクロテナガザル、ホオジロカンムリヅル、チュウゴクワニトカゲに関するパネルを追加した。
- ・現在、研究成果のパネルは4種6パネルとなっている。
- ・今年度末までにキリン、フクロテナガザル、チュウゴクワニトカゲが追加される予定。
- ・また、当園での研究活動に関する来園者向け報告会を企画し、R2.2/15に実施した。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、研究成果を園内で紹介していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

研究フィードバックパネルの例

〔no.71 補足〕



フンボルトペンギンの社会関係
(大阪大学人間科学部、H29～)



ホオジロカンムリヅルの発達と毛づくろい行動
(近畿大学総合社会学部、H30～)



チュウゴクワニトカゲの背中のつぶつぶの発達
(岡山理科大学生物地球学部、H30～)

《アクションプラン項目》

(テーマ)

研究活動

[動物園自身が実施する研究]

No.72、74

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
72	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

業務として調査研究を位置付け、具体的な研究目標を設定した上で、日常の業務の中で必要な情報の収集・蓄積と分析・研究を行い、業務の改善に活かします

■達成目標

具体的な研究目標を計画的に設定し、業務改善に活用する

■アクションプラン評価指標

調査研究課題の設定とそれに基づく調査研究の実施

■評価理由

ある程度の調査研究活動は行っているものの、研究目標を設定するなど計画的な実施は行えていない

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・通常業務を進める中で一定の調査研究を行っているものの、業務としての位置づけが弱い。

【評価理由の詳細】

・調査研究としては、JAZA関連会議等で毎年10件程度の研究発表を行っている。詳細は別紙参照。

・一方、職員の業務として調査研究を位置付けることはできておらず、個別の研究に係る研究目標の設定などは行えていない。

■今後の取組方針

【総括】

・調査研究業務の位置づけの整理や研究目標の設定については、独法化を視野に入れつつ検討を行う。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

独法化を視野に入れつつ、調査研究業務の位置づけの整理を進める。

日本動物園水族館協会関係会議等における天王寺動物園職員の研究発表一覧（平成28年度～）

No.	研究会名	日程	発表者	演題
1	近畿ブロック動物園飼育係研修会	H28.6.23	飼育員	ニワトリを活用した園内での鳥類ガイドについて
2	コアラ会議	H28.7.4-5	飼育員	天王寺動物園における コアラ屋外展示について
3	近畿ブロック動物園水族館臨床研究会	H28.7.7	獣医	グラントシマウマの腫瘍について
4	近畿ブロック動物園技術者研究会	H28.10.29	飼育員	ジャガーの人工保育について
5	近畿ブロック動物園技術者研究会	H28.10.29	獣医	リンパ性白血病と診断された鳥類について
6	ゾウ会議	H28.11.9-10	飼育員	放飼場に新たに設置した日除けについて
7	ゾウ会議	H28.11.9-10	獣医	飼育動物の保全と福祉について
8	両生類爬虫類会議	H28.12.19-20	獣医	ヘビの人工授精について
9	両生類爬虫類会議	H28.12.19-20	飼育員	ヨウスコウワニの繁殖の取り組みについて
10	全国動物園水族館技術者研究会	H29.2.14-16	獣医	グラントシマウマに見られた馬サルコイドについて
11	近畿ブロック動物園飼育係研修会	H29.6.12	飼育員	ワライカワセミの人工ふ化および人工育雛について（結果報告）
12	コアラ会議	H29.7.3-4	飼育員	天王寺動物園におけるコアラ飼育状況
13	近畿ブロック動物園水族館臨床研究会	H29.7.6	飼育員、獣医	ウンビョウの歯科疾患について
14	日本野生動物医学学会大会	H29.9.3	獣医	動物園・水族館における生息域外保全の進め方
15	大型動物麻酔研究会	H29.10.2-3	獣医	グラントシマウマにおけるM99使用報告とオピオイド使用マニュアルの再整備について
16	両生類爬虫類会議	H29.10.3-4	獣医	野外のカメにおけるサルモネラ属菌の保有に関する考察
17	両生類爬虫類会議	H29.10.3-4	飼育員	ベンガルオオトカゲの行動と来園者視線の関係について
18	近畿ブロック動物園技術者研究会	H29.10.26	飼育員	嫌悪刺激を与えない飼育管理への取り組みについて
19	近畿ブロック動物園技術者研究会	H29.10.26	獣医	病原大腸菌の関与が疑われるダチョウの化膿性胃腸炎の一例
20	ゾウ会議	H29.11.29-30	飼育員	単独飼育となった高齢ゾウの変化について
21	ゾウ会議	H29.11.29-30	獣医	ゾウにおける動物福祉向上策の策定方針について
22	全国動物園水族館技術者研究会	H29.12.12-14	獣医	サル類の健康診断における血液検査3項目の臨床的意義について
23	全国動物園水族館技術者研究会	H29.12.12-14	飼育員	コアラはコアラらしくプロジェクト？
24	第3回合同類別調整者会議 (3rd Joint TAG Chairs Meeting)	H30.5.1	獣医	Recent conservation approaches of Japanese Association of Zoos and Aquariums
25	近畿ブロック動物園飼育係研修会	H30.6.28	飼育員	フンボルトペンギンの繁殖方針と成育状況について
26	韓国動物園水族館協会セミナー (Annual Seminar of Korean Association of Zoos and Aquariums)	H30.7.5	獣医	Conservation efforts of Japanese Association of Zoos and Aquariums
27	コアラ会議	H30.7.9-10	飼育員	天王寺動物園におけるコアラ飼育状況
28	近畿ブロック動物園水族館臨床研究会	H30.9.19	獣医	スナドリネコに発生した慢性腸炎について
29	全国動物園水族館技術者研究会	H30.9.27-29	獣医	学習指導要領に準拠した教育プログラムの開発、作成および活用について
30	全国動物園水族館技術者研究会	H30.9.27-29	飼育員	ふれあいイベント時におけるテンジクネズミの唾液中 cortisol 測定及び来園者の質的評価について
31	近畿ブロック動物園技術者研究会	H30.10.10	獣医	ブラッザグエノンに発生したエルシニア症について
32	近畿ブロック動物園技術者研究会	H30.10.10	飼育員	若齢キリンにおける 産後の発情周期の把握
33	大型動物麻酔研究会	H30.10.29-30	獣医	この1年間の塩酸エルトフィンの使用状況について
34	ゾウ会議	H30.12.12-13	獣医	動物園における動物福祉の評価について
35	ゾウ会議	H30.12.12-13	飼育員	アジアゾウの死亡について
36	両生類爬虫類会議	H30.12.18-19	獣医	薬浴による両生類の駆虫について
37	両生類爬虫類会議	H30.12.18-19	飼育員	展示環境改変による展示効果向上の取り組み
38	近畿ブロック動物園飼育係研修会	R1.6.20	飼育員	ナイトZOO 4年間の総括について
39	近畿ブロック動物園水族館臨床研究会	R1.7.3	飼育員、獣医	トレーニング採血下によるビューマの健康管理について
40	日本野生動物医学学会大会	R1.9.1	獣医	飼育下のナベヅルにおける繁殖期および一腹卵数、一腹産子数の検討
41	大型動物麻酔研究会	R1.10.1-2	獣医	大型草食動物麻酔における使用薬剤の傾向 ZIMSデータに見る海外での麻酔事例について
42	ゾウ会議	R1.12.3-4	飼育員	空き獣舎を利用した教育普及活動について
43	両生類爬虫類会議	R1.12.10-11	飼育員	ミドリガメを題材とした外来種への認識のアンケート調査
44	両生類爬虫類会議	R1.12.10-11	獣医	検疫における爬虫類の寄生虫保有状況
45	全国動物園水族館技術者研究会	R1.12.17-19	飼育員	ヒガシクロサイの行動を指標とした繁殖行動発現予測
46	全国動物園水族館技術者研究会	R1.12.17-19	飼育員	担当者の話題提供方法の違いによるふれあい体験参加者への影響

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
74	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

調査研究に関する能力向上と職員間での情報共有を進めます。また、調査研究に必要な設備・器具、備品等の確保を進めます

■達成目標

調査研究能力を向上させ、情報共有も図る

■アクションプラン評価指標

動物飼育に関する専門的な研修等の参加および報告会等の実施実績、設備・備品等の確保内容

■評価理由

調査研究に関する情報の共有を図っており、設備・備品等の導入も進展している

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・調査研究活動については研究を行った職員だけでなく広く園内で情報共有していく必要がある。

【評価理由の詳細】

・研究会等への参加については、所内報告会等において情報共有を進めている。（項目 5 2、5 3 参照）

・調査研究に必要な設備・器具、備品等の確保については、H29、動物用の2トン体重計を導入、内視鏡、ふ卵器を更新、H30にはレントゲン装置、検卵器を更新した。

■今後の取組方針

【総 括】

・引き続き、飼育技術に関する情報の共有を進めるとともに、調査研究の推進に必要な設備等の確保に努める

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

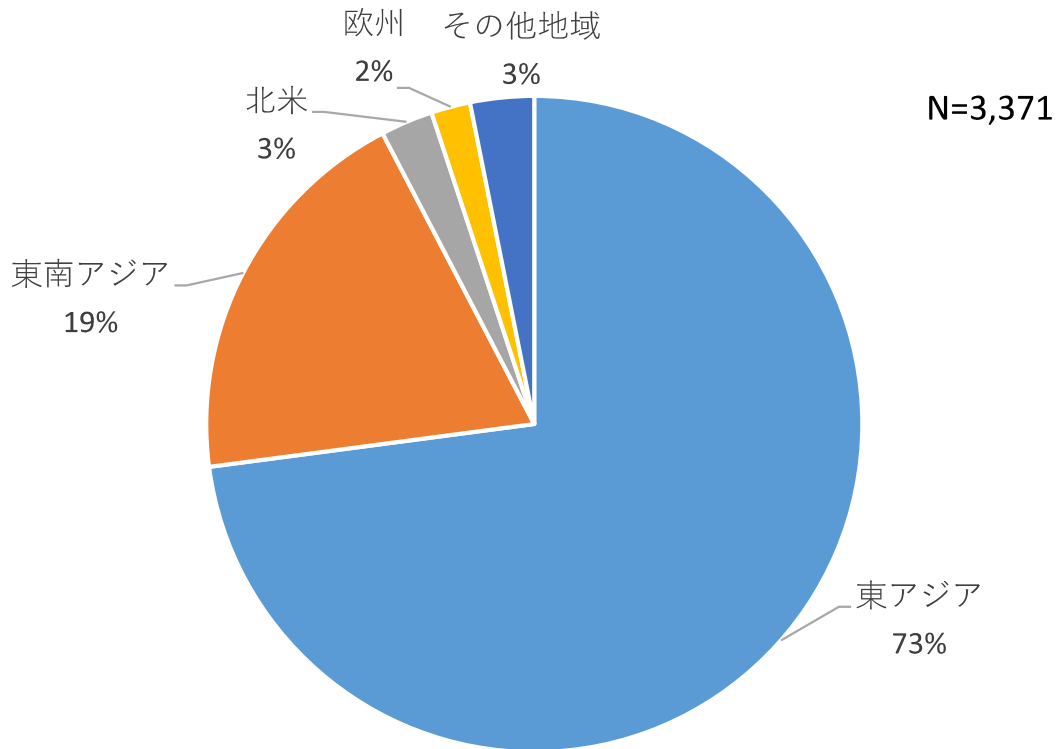
インバウンド対策

[園内のコンテンツ・サービスの強化]

No.37、40、38、39

インバウンド基礎データ

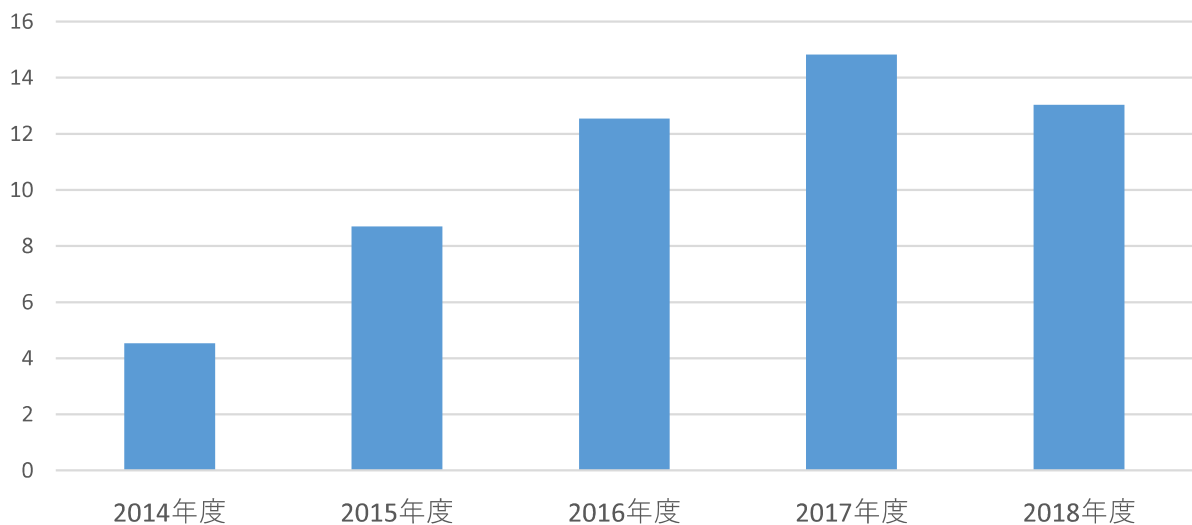
外国人来園者国別比率（2019）



注：2019年6～12月のうち7日間（平日4日間、土日祝3日間）において、両ゲートでの聞き取り調査

単位：万人

周遊パス利用者年度推移（2014-18年度）



注：周遊パスの利用者は大半が外国人であるため、外国人来園者数の代理指標となると考えられる。
 なお、101計画では、周遊パス利用者数×1.4により外国人来園者数の推計を行った。

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
37	○	管理担当	○
		飼育担当	○

■ 計画内容

園内での多言語による情報提供を強化します

■ 達成目標

職員作成の園内掲示物も可能な限り多言語化する

■ アクションプラン評価指標

多言語化またはピクト（絵文字）化したパネルの整備実績

■ 評価理由

H30年度に多言語化した案内板を21基設置済みで、動物種名板についてもR1年度に10基設置する予定となっている。

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・多言語化した案内板等の設置が進んでいる。

【評価理由の詳細】

・動物種名板については、H28年度に一部エリア（サバンナ、アイファア、夜行性動物舎、鳥の楽園）を除いて統一的なフォーマットのパネルを制作し、その際、種名等の基本的事項に加え、2行位の簡単な解説についても、可能なものは多言語化を行った。現在このフォーマットで設置している種名パネル88枚中57枚が日英中韓の4か国語での解説を提供している。

・H29～30年度にかけて整備した大型の解説板（12枚）については、日英の2言語で解説文を作成し設置した。

・園内の道案内板については、4か国語を原則としており、H30年度には新たに21基の案内板を設置した。

・R1年度には、10基の動物種名板を設置する予定。

■ 今後の取組方針

【総括】

多言語のパネルや案内板について引き続き充実を図る。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

園内の案内パネル等の多言語化の例

(No.37補足)



4 言語による園内案内板



4 言語による注意パネル

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
40	○	管理担当	
		飼育担当	○

■ 計画内容

日本産動物の展示を強化します

■ 達成目標

展示種数の強化と併せて、地元暮らし動物に関する情報発信を進める

■ アクションプラン評価指標

日本産動物の展示、解説板等の掲示物設置の実績

■ 評価理由

H30年度に、コウベモグラ、ホンダタヌキ、ニホンアナグマを導入し、展示種数、点数を増やすとともに、動物舎前に解説板等の掲示物を設置した

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・大阪を訪れる外国人来園者に対するサービスとして日本産動物の展示の強化が必要。併せて、日本産動物の展示強化は大阪の都市部の住民に対して、日本の動物を知ってもらうという効果も期待できる。

【評価理由の詳細】

（日本産動物の展示強化）

- ・日本産動物の種数を増やしつづあり、当園で飼育している日本原産動物の種数はH28年末に12種だったものが、H30年末には15種に増加した。（H30年度に、ホンダタヌキ、ニホンアナグマを導入）
- ・コレクション計画に基づき、H30年度に導入したコウベモグラについては、園内での飼育技術を確立することができていないため、未展示の状態となっている。（バックヤードで飼育）
- ・H31年度には、繁殖のためニホンコウノトリのオスを導入した。
- ・ニホンジカ、ニホンコウノトリ等の日本産動物については、種名パネルでの解説とは別に英文での解説パネルを設置済み。

（将来計画）

- ・101計画では、「日本の森」ゾーンの設置も構想しており、今後、計画の具体化を進めることが必要。

■ 今後の取組方針

【総括】

- ・引き続き、日本産動物を充実させていくとともに、外国人観光客などへの効果的なアピールを検討していく。
- ・「日本の森」ゾーンの検討を進める。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

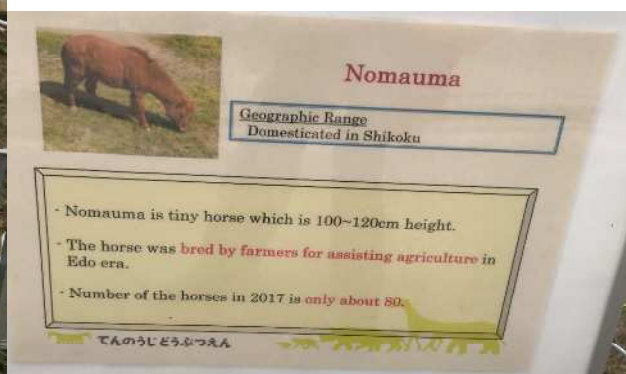
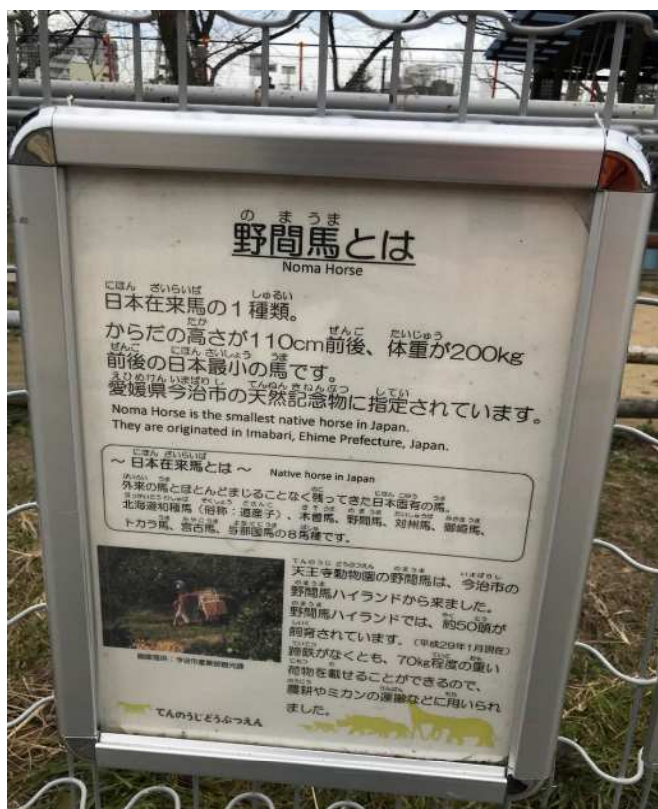
日本産動物に係る英文解説パネルの例



ニホンコウノトリの英文解説パネル



ホンドタヌキの種名パネル（上）
と英文解説パネル（下）



野間馬の日英文の解説パネル（左）と英文解説パネル

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
38	○	管理担当	○
		飼育担当	

■ 計画内容

簡単な挨拶程度を多言語でできるよう、スタッフの研修を行います

■ 達成目標

挨拶程度は英・中・韓でできるよう、外国人来園者に対する接遇を改善する

■ アクションプラン評価指標

スタッフ研修の実績

■ 評価理由

外国人来園者に対する接遇にかかるスタッフ研修等を実施している

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・研修を行いマニュアルにも掲載するなど、職員の意識も向上し一定の効果は上がっている。

【評価理由の詳細】

・増加する外国人観光客に対する動物園スタッフの対応水準を向上させる必要がある。

・H28年度には、職員向けの接遇研修として、外国人来園者への接遇の研修を行い、この研修の資料を活用して、職員が携行する「虎の巻」に英語、中国語、韓国語の簡単なあいさつ程度の会話集を掲載している。

・それ以降は、新採や転入してきた職員を対象として、「虎の巻」を用いたCSオリエンテーションを実施している。

■ 今後の取組方針

【総括】

内部の研修のみならず、改めて外部の専門講師による研修の実施を検討していく必要がある。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
39	△	管理担当	○
		飼育担当	

■ 計画内容

英語、中国語、韓国語に長けたスタッフを採用し配置します。また、通訳や翻訳が行えるボランティアの確保に努めます。

■ 達成目標

委託業務での外国語対応可能なスタッフ、通訳ボランティアの確保

■ アクションプラン評価指標

外国人来園者に対応できるスタッフ等の配置

■ 評価理由

H30年4月から、ゲートに外国人来園者に対応するスタッフ（委託）を配置できている。
通訳ボランティアの確保には至っていない。

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・業務委託により配置しているが、ボランティアの確保には至っていない。

【評価理由の詳細】

- ・外国人来園者の増加や動物園としての国際活動の拡大に伴って、語学のできるスタッフの確保が課題となっている。
- ・H29年度に、接客の最前線となるゲートの出改札業務委託について、業務の仕様を見直し、英語対応できるスタッフの配置を条件とした募集を行った。なお、中国語・韓国語に対応できるスタッフを条件化については、発注価格の上昇と契約不調のリスクがあるため見送った。（英語対応により、中国人、韓国人を含む多くの外国人への対応が可能と考えている）
- ・H30年度より、見直し後の仕様に基づく業務委託を開始。英語対応できるスタッフが配置された。
- ・R1年度より新たに設置し採用した「動物専門員」については、英語対応ができる職員を1名採用した。
- ・一方、通訳・翻訳等が行えるボランティアについては、あまり検討が進んでいない。

■ 今後の取組方針

【総括】

独法化を視野に入れつつ、中国語・韓国語が話せるスタッフの配置、通訳ボランティアの確保についても検討していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する